

CUC公開講座2022[第8回]第2報告

フェアトレード大学認定を考える ー北星学園大学の取り組みから

2022年11月25日（金） 16：10～16：40

北星学園大学経済学部教授 萱野智篤

本日の話しの流れ：

1. フェアトレード大学、その認定基準
2. 2019年、初認定時までの北星の活動
3. コロナ渦の中での活動（2020年～2022年）
4. 認定を考える

フェアトレード大学とは？

- ▶ 2003年、イギリスのオックスフォード・ブルックス大学の学生団体が、大学ぐるみでフェアトレードを普及していくことを宣言し、世界初のフェアトレード大学となる。
- ▶ 日本では、2014年にフェアトレード大学の5基準が作られ、2018年1月に、静岡県浜松市の静岡文化芸術大学が日本で初めてのフェアトレード大学の認定を受ける。
- ▶ 札幌は、2019年6月、日本で5番目のフェアトレードタウンとなり、2019年10月には、国内2番目、北海道で初めてのフェアトレード大学が2校同時に誕生。



日本のフェアトレード大学基準は？

- ▶ **基準1. フェアトレードの普及を目指す学生団体が存在する。**
- ▶ **基準2. フェアトレードの普及を図るキャンペーンやイベント、並びにフェアトレードに関する研究・教育活動がキャンパス内外で行われている。**
- ▶ **基準3. 大学当局がフェアトレード産品を調達している。**
- ▶ **基準4. 複数のフェアトレード産品がキャンパス内で購入可能となっている。**
- ▶ **基準5. フェアトレードの理念を支持し、その普及をうたったフェアトレード大学憲章を策定し、学生自治会（ないし学友会などそれに準ずる組織）、FT普及学生団体、大学当局の三者が同憲章に賛同している。**

フェアトレード大学基準 – 5基準を順にみて、北星の状況と照らし合わせて見ると。

基準 1. フェアトレードの普及を目指す学生団体が存在する。

【指標】 1) フェアトレード普及学生団体（以下、普及学生団体と略す。）が大学から公認されている、ないし公認の申請を行っている。

北星には、「北星フェアトレード」という教員と学生で作るフェアトレード団体があり、2005年から活発な活動を展開し、2017年12月に大学にサークル公認申請を行っている。

2022年11月公認

2) 普及学生団体に顧問の教員がいる。

いる。萱野智篤



途上国の製品 適正価格で販売

「フェアトレード」の意義は、途上国の生産者の生活を支援し、環境に配慮した商品を生産することにある。フェアトレードは、途上国の生産者が適正な価格で商品を生産し、消費者が適正な価格で商品を購入できるようにする。フェアトレードは、途上国の生産者を支援し、環境に配慮した商品を生産することにある。

途上国の一助に 伝統刺しゅう販売

北星学園大札幌校で、途上国の伝統刺しゅう販売が行われた。販売された商品は、途上国の生産者が伝統的な技術で製作した刺しゅう作品である。販売された商品は、途上国の生産者を支援し、環境に配慮した商品を生産することにある。

10/12/4 北海道新聞(朝刊) 第2版 経済部

途上国の製品 適正価格で販売

フェアトレード 意義は

北星学園大(札幌市厚別区)の学生と教員でつくる団体「北星フェアトレード」は3日、フェアトレードの意義を考える講演会を同大で開いた。同日から始まったイベント「クリスマスフェアトレード」の一環。4日も同大で、5日にはサッポロファクトリー(中央区北2東4)で雑貨販売や映画上映などを行う。

(片岡登江)

北星大で講演会 身近な協力 まず参加

北海道新聞 2009年(平成21年)12月4日(金曜日)

今年はファッションショーも 趣向凝らしPR

フェアトレード商品をファッションショーなどを開く学生たち。後列の学生が着ているニットがショーにも登場する

映画上映 雑貨販売… 6日にイベント

フェアトレード商品のファッションショーなどを開く学生たち。後列の学生が着ているニットがショーにも登場する

2010年(平成22年)6月22日(火曜日)

北海道新聞

「フェアトレード」を知って

フェアトレード商品のファッションショーなどを開く学生たち。後列の学生が着ているニットがショーにも登場する

09/12/17 新報(朝)

暖かくておしゃれな フェアトレード衣料

北星大生、札幌でショー

フェアトレード商品のファッションショーなどを開く学生たち。後列の学生が着ているニットがショーにも登場する



フェアトレード商品を着こなし、ステージ上を歩く学生もいる

「フェアトレード商品は丁寧な作りで品質も良かった。」と話していた。(上田貴子)



基準 2. フェアトレードの普及を目指したキャンペーンや研究・教育活動がキャンパス内外で行われている。

【指標】 1) 普及学生団体が3年以上にわたって継続的にフェアトレードの普及活動を行っている。

2) フェアトレードに関する研究・教育活動が推進・推奨されている。

2005年～2019年の14年間の中で73回の学内外でのイベントを主催・参加、うち45回は主催イベント。

2008年から経済学部で「フェアトレード実習/フェアトレード」の科目が開講され、年平均50名が履修。夏休みにフェアトレード製品常置店舗調査を行い、研究論文、卒論も多数生まれている。

2020年～2022年コロナ禍の中での活動は後述。



基準3. 大学当局がフェアトレード産品を調達している。

【指標】大学当局が継続的にフェアトレード産品を購入し、利用している。

2019年1月から入試監督室でフェアトレード紅茶提供開始。

2019年4月から非常勤講師控室でフェアトレード紅茶提供開始

2022年4月、寄付者への返礼品として大学ロゴ入り栞、竹製ボールペン（北星フェアトレードを通じてベトナムのFT団体制作）及びFI認証オーガニックコットン使用トートバッグを導入。

基準4. フェアトレード産品（食品・衣類・文具・手工芸品など）がキャンパス内で購入可能である。

【指標】大学生協食堂・売店やキャンパス内のカフェ等で、二品目以上のフェアトレード産品が継続的に販売され、購入可能である。

※ 一年のうち半年以上販売されていることを「継続的」と見なす。

※ フェアトレード産品には、FLO（国際フェアトレードラベル機構）ラベル認証産品とWFTO（世界フェアトレード機関）加盟団体の産品、それに普及学生団体が適切と認めるフェアトレード団体の産品が含まれる。

※ 「適切と認めるフェアトレード団体」とは、少なくとも以下の条件を満たしている団体のことをいう。

- a) WFTOの10原則に立って活動している。
- b) 事業の透明性が確保されている。

大学生協での北星フェアトレードによるワゴン販売、生協でフェアトレード紅茶常置、North Café Sarahでフェアトレード紅茶提供。



©2019 CO-OP フェアトレード事務局



基準5. 学生自治会（学友会などそれに準ずる組織）、フェアトレード普及学生団体、大学当局の三者によってフェアトレード大学憲章が策定されている。

【指標】 1) 策定された大学憲章において、フェアトレードの理念を支持し、その普及及び推進を謳っている。

2) 同憲章が大学の理事会あるいは全学教授会、ないし過半数の教授会で報告、承認され、理事長ないし学長が同憲章へのコミットを公に表明している。

※ 学生自治会ないしは学友会などそれに準ずる組織が存在しない場合は、普及学生団体と大学当局の二者によって策定されている。

2019年1月～2月 北星フェアトレードと学生自治委員会代表でフェアトレード大学憲章づくりが進む。

2月26日 学長・副学長と学生代表（北星フェアトレード、自治委員会）で協議。
最終原案がまとまる。

3月6日 大学評議会で審議、一部修正の上承認。

3月11日 学長、北星フェアトレード代表、自治委員会3者の代表が署名、捺印。

3月19日 大学HPで学長の憲章へのコミットメントを公表。

北星学園大学・北星学園大学短期大学部フェアトレード憲章

北星学園大学・北星学園大学短期大学部は「人間性・社会性・国際性」の理念を掲げ、豊かな人間性と社会性を育み、国内及び国際社会において平和の実現に貢献できる人材の育成を掲げている。実際に、貧困や経済格差などの国際問題について学び、考える機会は、学内に留まらず多々提供されている。しかし、一人ひとりがその問題を常に身近に感じ、解決のための継続的な活動に参加することは未だに容易ではない。

フェアトレードは、人々の意識した消費行動と「公平・公正な取引」を通じ、主に開発途上国の経済的立場の弱い生産者や労働者の生活改善・自立を目指すことを目的としている。札幌市内ではフェアトレードのイベントや店舗において推進活動が盛んに行われており、市民と生産者の間に「顔の見える関係」が築かれ始めている。また、フェアトレードは多面性を持ち、私たちの生活自体にも大きく関わっている。つまり、フェアトレード活動を行うことは「誰かのため」であると同時に、「自分たちのため」でもある。

私たちは、より多くの人々がフェアトレードに当事者意識を持ち、その理念がより広く深く理解されることを目指す。そしてフェアトレードが「当たり前」な社会になるまで多くの人々を巻き込みながら活動を続けていく。

私たちは、本来、世界中のすべての人々が対等な関係にあることを思い、フェアトレードの推進によって、差別や、貧困・格差が無い世界が実現することを願う。その実現のために私たちはフェアトレードの理念を全力で推進する。

2019年3月17日

北星学園大学・北星学園大学短期大学部 学長

北星学園大学・北星学園大学短期大学部 学生自治会自治委員長

北星フェアトレード代表 猪部 なつみ



大坊 郁夫

松村 蒼星



🏠 > 本学の取り組み > 大学フェアトレード憲章

大学フェアトレード憲章

北星学園大学・北星学園大学短期大学部 フェアトレード憲章の署名に当たって

この度、学生自治会と、北星フェアトレードの代表とともに協働して、本学のフェアトレード憲章の策定に当たり、3月11日に3者がそろって、署名しました。

本学においては、2005年以来、北星フェアトレードによる地道なフェアトレード普及活動が息長く続けられ、2008年からは経済学部の科目として「フェアトレード実習/フェアトレード」が設けられ、多くの学生がフェアトレードの学習・実践に関わってきました。

今回のフェアトレード憲章の策定、署名は、これまでの本学におけるフェアトレードの研究・教育が、建学の理念に沿ったものであることを確認し、全学的なフェアトレードの普及活動を通して、大学に学ぶもの一人一人が、自らの消費行動を意識的なものとし、SDGsの17の目標の実現を図っていくことをも目指しています。

憲章が謳う、「私たちはフェアトレードの理念を全力で推進する」ことを、本学の学長として支持し、協力していく所存です。

2019年3月19日

北星学園大学・北星学園大学短期大学部 学長 大坊郁夫

[北星学園大学・北星学園大学短期大学部フェアトレード憲章](#)

2019年6月11日（火）FTFJ（日本フェアトレードフォーラム）認定委員による現地調査



フェアトレード大学に認定に至るまで

- ▶ 2019年6月の現地調査は、ほぼ同時に申請された札幌学院大学の認定調査と続けて行われた。
- ▶ その後、調査団から調査報告書が、FTFJ（日本フェアトレードフォーラム）認定委員会に提出され、認定委員会で承認を受けた後、最終報告書がFTFJ理事会に送られた。
- ▶ 最終報告書は2019年7月に提出され、8月の理事会にかけられたが、理事の数が定足数に達せず、議決ができなかった。9月の理事会で再び審議され、認定委員長長の勧告に従い、2校同時の認定となった。

2019年10月12日、フェアトレードタウンさっぽろに国内2番目、北海道で初めてのフェアトレード大学が2校同時に誕生

- ▶ 大学ぐるみでフェアトレードを推進している大学を認定するのがフェアトレード大学。
- ▶ 2017年に浜松市の静岡文化芸術大学が国内初認定。
- ▶ 2019年10月には、北星学園大学・北星学園大学短期大学部と札幌学院大学が2校同時にフェアトレード大学に認定された。



コロナ禍の中での活動

2020年3月 北星フェアトレードが北星学園賞受賞

副賞を生かして3月～6月 ベトナムの生産団体と提携し大学ロゴ入り栞と竹製ペン制作

2020年8月～9月 経済学部科目「フェアトレード」店舗調査実施

2020年10月 札幌学院大学と世界フェアトレード大学Webシンポジウムを共催。

英国 Middlesex 大学、静岡文化芸術大学参加。

日英大学でエシカル消費に関する意識調査実施。

2021年2月 FTFJ主催 オンライン交流会「フェアトレード大学」未来のカタチ

わかものがフェアトレードを考える！ディスカッション～フェアトレードでつくれる未来ってなんだ？～に参加。

2021年8月～9月 経済学部科目「フェアトレード」店舗調査実施

2021年9月 北海道静内高校とのフェアトレードコラボ授業実施

2021年12月 北海道国際協力フェスタに北星フェアトレードがオンライン出店

2022年6月 フェアトレードフェスタinさっぽろ2022に北星フェアトレードが参加。
出展・活動報告

2022年8月～9月 経済学部科目「フェアトレード」店舗調査実施

北星フェアトレードによる大学グッズ制作



2020年6月学園
賞受賞を記念し
て、ベトナムの生
産者と提携し、北
星ロゴ入りライ
ラック柄の葉と竹
製ボールペンを
製作販売。大学
生協フェアトレ
ードワゴンで好評発
売中。



ライラックの香り、

よみがえるたびに、

新しく希望は生まれる、



北星フェアトレードは、2019年度北星学園賞受賞記念に、ベトナムの生産者と連携して、ライラック柄の手作りしおりと、竹製ボールペンを製作し、販売いたします。COVID-19の世界的流行という厳しい状況の中、これら2つの新しいフェアトレード産品が国境を超えた連携の中で生み出されたことに希望を持ち、さらに前進していきたいと思っております。

ライラック柄しおり ￥400 (税抜き)

竹製ボールペン (北星ロゴ入り) ￥500 (税抜き)

第1回世界フェアトレード大学Webシンポジウム (2020年10月24日)

第1回
世界フェアトレード大学
Webシンポジウム
—フェアトレード大学の
地域における役割—

2020. 10. 24.
Sat
日本時間 17:00~19:30
@YouTube Live

<参加大学>
札幌学院大学
北星学園大学
静岡文化芸術大学
Middlesex University



日英4フェアトレード大学から、49名が参加して「フェアトレード大学の地域における役割」をテーマにして討論、日英同時通訳付き。シンポジウム後に、FTFJの協力で、英国28大学159サンプル、日本17大学205サンプルに「エシカル意識調査」をオンラインで実施。分析結果を「人をエシカル消費に向かわせるものは何か？—日英国際分析の視点から—」と題した論文で発表。

https://sgul.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=3241&item_no=1&page_id=13&block_id=21

北海道静内高校とのフェアトレードコラボ授業（2021年6月①）



2021年6月22・29日の2回にわたって、北海道静内高校3年生と、オンラインでフェアトレード・コラボ授業を実施。1日目は高校生が3グループに分かれてプレゼン大会。優勝グループの発表は、6月27日のフェアトレードフェスタオンラインさっぽろ2021で公開。2日目（6月29日）は、北星フェアトレードメンバーがそれぞれの視点から、フェアトレードを紹介。これがきっかけとなり、静内高校でフェアトレードチーム結成、独自の活動を展開。

授業に参加した3年生4名がフェアトレードチームを結成。地域の特徴を生かしたフェアトレード製品を開発し、地元の地域活性化と、厳しい状況に置かれた世界の子供たちへの支援を行う国際NGO（テラ・ルネッサンス）に収益を寄付。



北海道新聞 2022年1月31日(月) 朝刊
第3種郵便物認可

フェアトレード普及へ 静内高生がクッキー販売

CF開始「遠い国の人助けに」

【新ひだか】静内高校(日高管内新ひだか町)の3年生4人が地元の特産品と協力し、発展途上国の産品を適正価格で買う「フェアトレード(F・T)」で輸入された原材料を使ってクッキーを製造販売する。インターネットのクラウドファンディング(CF)で資金を募り、売り上げは紛争地の元少年兵の社会復帰などを助けるNPO法人に寄付する。生徒たちは「F・Tの取り組みを広め、世界の課題とも向き合いたい」と意欲を見せる。

同校の選択授業でF・Tが、途上国発展や児童労働の防止につながることを学んだ池田知穂さん、池味華和さん、岡垣楓さん、坪島友衣さんが「自分たちも関わりたい」と決めた。クッキーの製造を手掛ける障害者就労支援施設「クッキー工房 風」と協力して行う。クッキーは札幌の雑貨店「これからや」がF・Tで仕入れた東アフリカ産紅茶コーヒータンザニア産紅茶などを生地に練り込み、4種類の校の名所二十間道路路校「並木」にちなんで花びら形に仕上げ、1袋30個を50個販売。原料と同じコーヒータンザニア産紅茶のセットも30個売

資金の目標額は20万円。北海道新聞社のCF「フラインド・エイト」(https://find-h.jp/)で2月15日まで10千円1万円を募集している。支援者には返礼メッセージに加え、5千円以上を寄せた人にはクッキーなどを贈る。売り上げは京都のNPO法人「テラ・ルネッサンス」に寄付する。

池味さんは「地域の人たちと関わる場を自分たちでつくり、社会問題に対しても見て見ぬふりをせず、遠い国の人助けになりたい」と抱負を語っている。(杉崎萌)

クッキー製造でフェアトレード普及に取り組む(左から)池味さん、池田さん、坪島さん、岡垣さん(静内高校提供)

フェアトレードチーム in 静内高校

経済学部科目「フェアトレード」店舗調査



「フェアトレード」（通年4単位）では、2011年から2017年までは2年ごと、2018年からは毎年夏休みの実習課題として、札幌市内のフェアトレード常置店舗の調査を履修者が行っている。この調査を通じて、学生は、①フェアトレード商品进行判断する知識と判断力を身に付け、②訪問調査の実践（電話での説明、アポイント取り、インタビュー）を通じて、社会人基礎力を養い、③地域におけるフェアトレードの浸透度と関係者の意識を理解する。調査結果は、札幌市のフェアトレードタウン認定、札幌市国際部によるフェアトレードマップの作成、改訂の基礎データとなった。

大学認定を考える

- ・ 認定基準は、フェアトレード大学になるためのミニマムスタンダードと考えるべきではない。
- ・ 基準は、大学で、教職員と学生が一体となってフェアトレードを発展させるためのセーフティーネットであり、そのセーフティーネットの上で展開される活動は、各大学の学生・教職員のイニシアチブを生かした多様なものとなる。
- ・ 認定はテストではない。認定の核心は、認定委員との対話にある。多様なフェアトレード大学の経験を共有し大学の基本的な責任である教育・研究をさらに発展させるきっかけが認定である。貴学の認定に幸あれ！